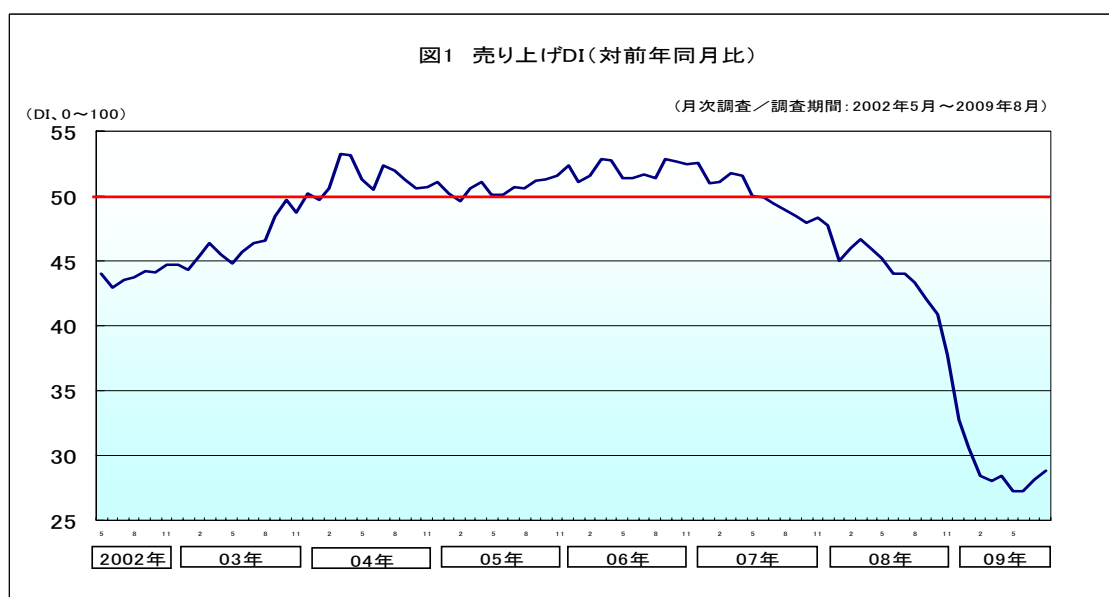


小売業と卸売業の売り上げの推移の違いについて【売り上げDI】

- ・ 売り上げDIは2008年秋から急速に減少
- ・ 『小売』の売り上げDIより『卸売』の売り上げDIの悪化幅が大きい
- ・ 『小売』は回復の兆し、『卸売』は底ばいだが回復に向かう可能性あり

TDB 景気動向調査には売り上げに関する指標として、売り上げDIがある。売り上げDIとは、調査先企業に前月、前年同月との売り上げの増減を比較してもらい、売上高に対する認識を0～100で表した指標で、50が判断の分かれ目となる。50より水準が高ければ売り上げは増加、低ければ減少していることを表す。

景気悪化を受けて消費不振、販売不振といった報道をよく耳にするが、企業の売り上げに対する認識はどうなっているのだろうか。売り上げDIを用いて考察する。売り上げDIには前月比と前年同月比があるが、前月比は季節要因の影響を受ける傾向があるため、前年同月比について考えていきたい。



最初に、全体の売り上げDIの動きを概観しておこう。売り上げDIは、2005年3月～2007年5月まで判断の分かれ目となる50を上回っており、増加していた。その後、50を下回る状況が続いている。つまり、2007年6月の段階から売り上げは前年同月より減少していると確認されていたのである。さらに、リーマン・ショックが起きた2008年秋頃から、急激な株安や雇用・所得環境の悪化で消費者心理が一段と低下したことや、設備投資の減少や輸出不振などから悪化幅が拡大し、2009年5月まで景気DIの悪化基調が続いた。

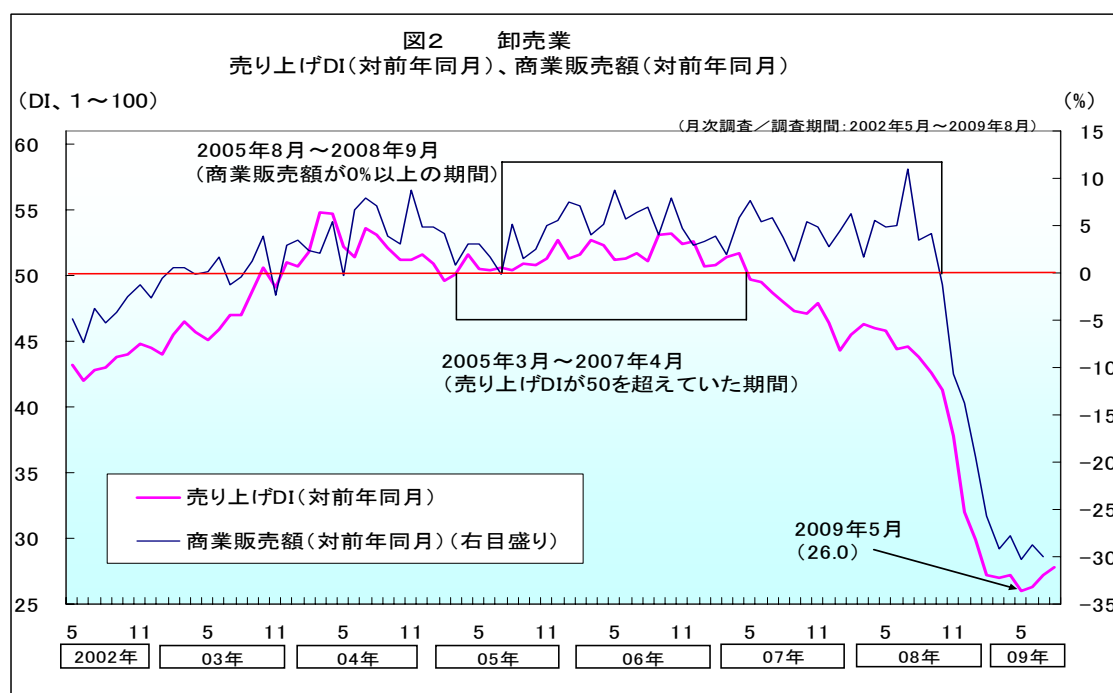
当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。

DI 分析レポート

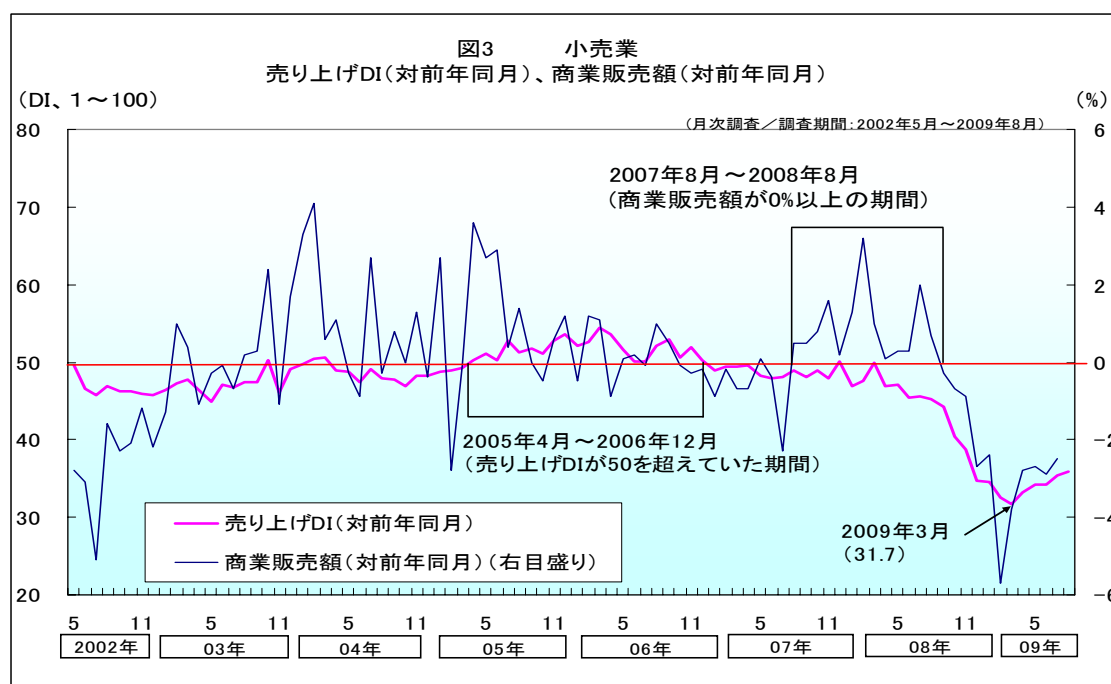
TDB 景気動向調査 (URL : <http://tdb-di.com/>)

また、業界別で見ると、2008年秋頃から『製造』『運輸・倉庫』『卸売』などが大きく減少した一方、『農・林・水産』『小売』などは相対的に悪化幅が小さい。『小売』は主に『卸売』から仕入れているため両者には密接な関係があるが、売り上げDIで見ると『卸売』の悪化幅は大きく『小売』の悪化幅は小さい。なぜ『卸売』と『小売』で差ができたのだろうか。

そこでまず、『卸売』と『小売』の売り上げDIの推移をみてみよう。2008年秋までの売り上げDIはどちらも概ね40～55の間で推移していた。『卸売』は2005年3月～2007年4月、『小売』は2005年4月～2006年12月の間連続して判断の分かれ目となる50を上回っており、『卸売』の方が50を上回っていた期間は長い。消費者心理が悪化したため、まず消費者に近い『小売』の売り上げが減少し、次いで『小売』から価格引き下げ要請を受けた『卸売』が悪化した可能性がある。2008年秋から売り上げDIの悪化幅が大きくなり、『卸売』は5月に26.0、『小売』は2009年3月に31.7となり、それぞれ過去最低となった。特に『卸売』の悪化幅の拡大が目立っている。



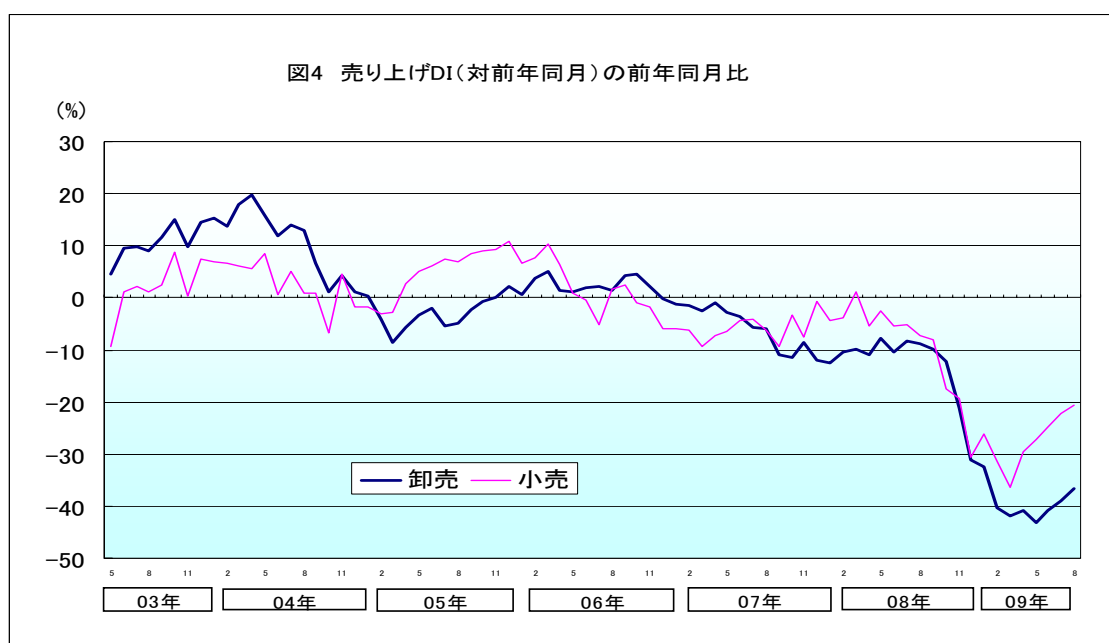
当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および無断引用を固く禁じます。



今度は、「商業販売統計」(経済産業省)により『卸売』と『小売』の販売額(前年同月比)を確認する。『卸売』は2005年8月~2008年9月まで連続して売り上げが増加し、2008年10月以降減少に転じた(図2)。『小売』は2007年8月~2008年8月まで連続して売り上げが増加し、2008年9月以降減少に転じた(図3)。両者とも2008年秋頃から悪化し始めたが、『卸売』の方が急速に悪化している。『小売』は最も下落率が大きかった2009年2月でも▲5.7%であったのに対し、『卸売』は2009年2月で▲25.7%、最も下落した2009年5月では▲30.3%となり『小売』と大きく差が開いた。商業販売額でも『小売』の悪化幅より『卸売』の悪化幅の方が大きい。

『卸売』と『小売』でこのような違いがみられた原因について考える。まず、売上高の減少した『小売』から『卸売』への価格引き下げ要請や取引先の見直しなど、『卸売』にしわ寄せがきたことも要因の1つになっている。また、『卸売』を通さず『小売』が『製造』と直接取引する問屋の中抜きやPB商品の開発、倒産などによる問屋数の減少なども考えられるであろう。

さらに、『卸売』と『小売』の売り上げDIの前年同月比を比べると2008年9月~12月までは類似していたが、その後『卸売』の悪化速度の方が一段と増している(図4)。その後『小売』は2009年4月から、『卸売』は6月から改善し始めた。改善のスピードも『小売』の方が速い。これは2009年春頃から企業の低価格戦略や、政策的な消費刺激策などが一因である。



最後に今後の見通しについて考える。売り上げDIと商業販売額を『小売』『卸売』でそれぞれ比較すると、『小売』は商業販売額が2009年2月を底、売り上げDIが1カ月後の3月を底として、緩やかに回復する兆しがみられる。他方、『卸売』は現在底ばいであるが、商業販売額、売り上げDIともに2009年5月を底としている。今後は、『小売』の緩やかな上向き傾向を追う形で、『卸売』もゆっくりとしながらも回復に向かう可能性がある。『卸売』がより早期に回復するためには、情報力を強化したきめ細かい顧客対応や、また、『卸売』は規模の小さい企業が多いため、同業者と連携し、物流の効率化や交渉力の強化、地域に根ざしたサポート機能を強化することが求められる。

(産業調査部 経済動向研究チーム K. S)